

次世代Web技術を利用した 企業内コラボレーション —人と情報の価値を高めるために—

アブストラクト

1. 研究背景

近年「2007年問題」と称される団塊世代の大量勇退に伴う労働力不足や技能・ノウハウの継承などが問題視されている。従来のIT活用の目的は、仕事の効率化や省力化が中心であった。これからのIT活用は、個人が持つノウハウや気付きなどの情報収集や活用という新たな段階への進化が求められている。

2. 研究目的と進め方

当分科会では、次世代Web技術を用いて、個人が持つノウハウや気付きなどの情報を収集・整理・活用することを研究した。次世代Web技術を利用した企業内コラボレーション活性化のための提言を行なうことを目的とした。

はじめに情報共有の現状と課題を整理し、「企業内コラボレーションのあるべき姿」を定義した。次に、次世代Web技術を調査し、企業内コラボレーションへの適用可能性を研究した。さらに、適用シーンを作成して定性的効果を明示し、導入済みの先進企業や他研究会へヒアリングし妥当性を確認した。また、次世代Web技術の具体的な実装検証を行なった。最後に、「次世代Web技術を利用した企業内コラボレーション活性化のための提言」を行なった(図1)。

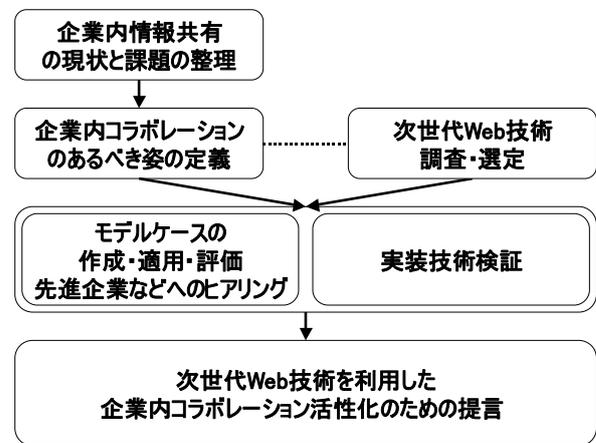


図1 研究の進め方

3. 研究成果

(1) 企業内コラボレーションのあるべき姿の定義

「発信する」、「まとめる」、「探す」という3つの観点で、当分科会メンバー各社が抱える情報共有の課題の整理と原因の検討を行なった。その結果、従来の情報共有のやり方では解決できない課題も多いことがわかった。そこで、「企業内コラボレーションのあるべき姿」を「システム・技術」と「社員の意識・企業文化」の2つの側面から定義し、次世代Web技術を利用して実現することを目指して研究を進めた。

(2) 次世代Web技術の調査・選定

次世代Web技術として最近話題となっているWeb2.0について調査を行なった。その結果を元に「企業内コラボレーションのあるべき姿を実現する」という視点からBlog、Wiki、SNSの3つのツールを選定した(図2)。

さらに、次世代Web基盤技術の実装検証対象としてセマンティックWeb技術を選定した。

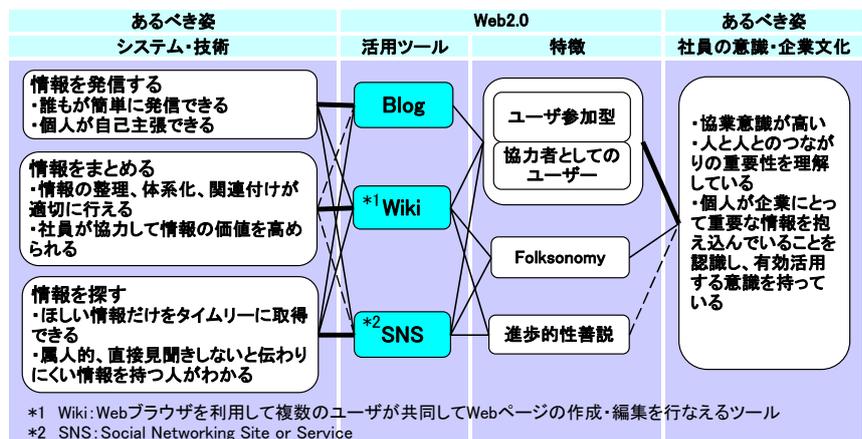


図2 活用ツールの選定結果

(3)適用シーンの作成と考察

選定した3つのツールを利用し社内コラボレーションを活性化し、下記の3つの具体的な適用シーンを作成した(表1)。

- ① Blog による個人手帳への活用
- ② Wiki による社内百科事典への活用
- ③ 社内 SNS によるコミュニティーへの活用

各適用シーンに関し、定性的効果の考察を行なった。また、

各メンバーが自社で実際に適用することを想定して、運用上の工夫や課題を考察した。さらに、導入済みの先進企業や他研究会から企業内で利活用した評価をヒアリングして妥当性を確認した。

表1 適用シーン一覧

適用シーン	適用シーンの概要	あるべき姿の実現			
		システム・技術			意識・文化
		発信する	まとめる	探す	
①Blogによる個人手帳への活用	スケジュールと業務報告、意見や気付きを発信する「Blog手帳」を活用し、個人が抱え込んでいる情報の発信を支援する。	◎	△	○	◎ (個人)
②Wikiによる社内百科事典への活用	「社内百科事典」を活用して、全社員が企業にとって有益な情報を簡単に共有・利活用でき、さらにその情報の価値を高める場を提供する。	○	◎	○	◎ (組織)
③社内SNSによるコミュニティーへの活用	「社内SNS」を活用し社内コミュニティーの形成を通して人と人とのつながりの構築拡大を支援する。またそのつながりを活かして技術や知識、ノウハウなどの伝達を支援する。	○	△	◎	◎ (人脈)

(4)次世代Web技術の実装検証

システム上の既存情報より人と情報を関連付けることができると仮定し、次世代Web技術として選定したセマンティックWeb技術の実装検証を行なった。検証用のモデルとして、Webサイトへのアクセスログから RDF (Resource Description Framework) を自動的に作成し、接続先情報に加え検索した人および検索キーワードまで把握できるWeb検索ポータルアプリケーションを作成した。

また、当分科会独自の作業手順、RDF解説書やサーバーログのRDFへの変換ツールなど、システム開発時に活用可能なツールを作成した(表2)。

表2 実装検証の手順と成果物の対応表

No	作業内容(作業手順)	成果物
1	テストモデル案作成	テストモデル案
2	サーバーログの取得、調査	ログの出力形式 ログモデル関係図 サンプルデータ
3	RDFモデル図の作成	RDFモデル図 モデル図の書き方 RDF解説書
4	MR3を利用したRDFの作成	プロパティークラスの関係表 MR3を用いたRDF作成手順書 実際のRDFファイル
5	サーバーログのRDF変換	アプリケーション概要図 Jenaの解説 RDQLの解説 Log2RDFアプリケーション
6	語彙の定義	語彙定義RDFファイル
7	Web検索ポータル要件の確定	要件定義書
8	Web検索ポータルの作成	ポータルアプリケーション

4. まとめ

今回利用した次世代Web技術はWWW上では既に多くのユーザーに利活用されているものの、企業内での利用はまさにこれから始まる場所である。本研究によって企業内コラボレーションにおける次世代Web技術の有効性を実証することができた。企業内コラボレーション活性化するためには**次世代Web技術の導入に加えて企業文化や社員の意識の変革が必要である**。企業内コラボレーション活性化のための当分科会からの提言を図3にまとめる。

当分科会からの提言7カ条

- ① 個人が持つ情報を簡単に発信できる次世代Webシステムを導入すべきである(経営者)
- ② 個人の意見を自由に発信できる企業文化を醸成すべきである(経営者)
- ③ 次世代Webシステム導入直後の推進に注力すべきである(情報システム部門)
- ④ 情報を得たければ自ら発信しなければならないことを認識すべきである(社員)
- ⑤ 情報を整理・公開するための管理者をおくべきである(経営者)
- ⑥ 企業に最適な次世代Webツールを選択すべきである(情報システム部門)
- ⑦ 次世代Web技術を使って自らシステムを構築してみよう(情報システム部門)

図3 企業内コラボレーション活性化のための提言

「今後のIT投資は、人と情報の価値を高める仕組みに向けるべきである！」